



津田 有莉奈

「不安」を感じさせる色彩の研究

—自然界の表層を元に—

色彩は人間の感性や心情に大きな影響を与えている。我々が美しい、心地よいなどポジティブな感情を感じさせる色彩がある一方で、気持ち悪さ、不安、不快感と言ったネガティブな感情を感じさせる色彩も存在する。色彩心理に関する研究はこれまでに数多く行われており、心地よいとされる色彩はインテリアコーディネートやカラーセラピーなど我々の生活を豊かにするために活用されている。一方、不快感や不安といったネガティブな感情を感じさせる色彩についての研究や活用は、多くなされていないといっても過言ではない。だがしかし、心地よくない色彩であるからこそ意味をなしている例や、醜いもの、目を背けたいものに対し、嫌だと思いつつも見てしまうといった感覚も存在する。このような、気持ち悪い、心地が悪いものに魅力を感じてしまうといった人間の感情に影響を及ぼす色彩の研究を行うことは、新たな人間の美的感覚の発見や活用に繋がるのではないかな。

派手な色彩で捕食者から身を守る役割を果たす警戒色などの派手な色彩(写真1)は、自然界に多く見られないものであることや、我々がこれを見たとき、これまでの経験から毒などの危害を知らせていると感じることより一般的に我々が不快感や違和感、気持ち悪さを感じる。よって、これらの表層を使用し、「不安」を感じさせる色彩及び、その色彩がどのように「不安」感じさせているのか、またどのような場合に「不安」を感じさせなくなるのかを明らかにする。

まず先行研究より、「不安」を感じさせる色彩について、大山らによる単色のイメージについての研究(※1)や、大山ら(※2)、加藤(※3)、佐川ら(※4)による配色のイメージについての研究から、『①「中灰」「紫」「黒」が含まれている色彩である。②2色以上の配色によって成されている。③色相が同一、明度彩度が対比関係にある色彩である。④「赤」を含む配色である、「緑」を含まない配色である。⑤色彩は色彩の面積率が高く、色彩パターンの分布が不規則である。』という5つの予想がたった。この予想を元に、アンケート調査を行い、「不安」を感じさせる色彩を明らかにしていく。アンケート調査では、自然界の生物のうちで警戒色など派手な色彩、目立つ色彩を持つものから、色彩に偏りが出ないよう12の生物を選出し(写真2)、①生物が表層に持つ色彩を抽出し、簡易的な配色に直したものの、②生物の表層のみが見えるようトリミングし、色彩をモノトーンに変更したもの、③生物の表層のみが見えるようトリミングし、色彩は本来のままのもの、④生物の表層のみが見えるようトリミングし、色彩をそれぞれ他の生物の色彩に二つずつ置き換えたもの、を試料として用意した後、それぞれから、最も「不安」を感じるものをひとつ、20代50名に選出してもらい、選んだものの印象や、それがイメージさせたものなど、なぜそれを選ぶに至ったかの理由を述べてもらった。

結果としては、自然界の表層では色彩の影響よりも配色の違いが印象の違いに大きく影響することがわかった。特に、色彩の配色のパターンがドットになっているものが「不安」を感じるという多くの回答を得た。これからは、同じ形状のものが多数集まった集合体に嫌悪感、恐怖を感じる「集合体恐怖症」の影響が考えられた。また、回答者が「不安」を感じる表層を選んだ理由を見ると、「なにかの顔に見える」、「エイリアンのよう」、「ウイルスのようだ」、「威嚇されている感じがする」といった自分以外の生命体を想像させるような理由がいくつも並んだ。「不安」という感情は色彩のイメージ以前に自分以外の存在、またそれが未知なものであるとから来ることがわかった。



写真1
警戒色をもつ、シロシロホタルガの幼虫



写真2

- ※1) 大山正、田中靖政、芳賀純「日米学生における色彩感情と色彩象徴」、1963
- ※2) 大山正、日比野治雄、Yu Quing-Ting、鎌田晶子「2色配色の感情効果-単色の効果との比較-」放送大学、千葉大学工学部、日本大学文理学部、2001
- ※3) 加藤雪枝「2色配色に対する心理的及び生理的反応」椋山女学園大学、2004
- ※4) 佐川賢、清水豊「色彩パターンの心理評価-占有面積率、配色数、分布の効果-」日本彩学会誌 VOLUME 19 NUMBER 1, 1995
- 写真1) モス・ネイチャー・ラボラトリー (<http://moth2001.web.fc2.com/3-252.html>)
2016.1.22閲覧
- 写真2) 小宮輝之「赤い生き物図鑑」、
「黄色い生き物図鑑」株式会社河出房新社、2015
西田賢司「わっ! ヘんな虫」探検昆虫学者の
珍虫ファイル」徳間書店、2012



津田 有莉奈

「不安」を感じさせる色彩を用いたテキスタイルの制作

テキスタイル×3、ワンピース、セットアップ×2、ポリエステル、転写プリント、120×200cm(テキスタイル)

Bizarre Wardrobe Collection



『「不安」を感じさせる色彩の研究—自然界の表層を元に—』の研究を元に、「不安」を感じさせる色彩を用いたテキスタイルの制作を行った。本制作では、我々「不安」を感じる色彩をもつ生物、「レースコロギス」、「ヒョウモンダコ」、「シャチホコガの幼虫」の表層をモチーフとしたテキスタイルを制作した。

「レースコロギス」の表層をモチーフとしたテキスタイル(図1)においては、研究にて明らかとした図1の色彩では多くの人が「不安」を感じたが、図1の右の色彩では「不安」を感じる人はいなかったという結果を受け、色彩による印象の違いを組み込み、左右での印象の違いのおもしろさを表現した。

「ヒョウモンダコ」(図2)、「シャチホコガの幼虫」(図3)の表層をモチーフとしたテキスタイルでは、研究からの展開として、サイズ感や立体感の違いから左右での印象の違いのおもしろさを表現した。同じ色彩を使用しても、サイズ感や立体感の差で異なる印象を受ける。

衣服への展開では、自然界では虫やタコなど生物が身にまとっている表層であっても、それを人間が身にまとうことで、「不安」を感じるものが、魅力的に映る瞬間が垣間見える。また、「不安」を感じる色彩を身にまとうことでマイノリティーとなれるとした研究の成果を受け、で新たな美的感覚を発見することに繋がる。



図1

図2

図3

